

秩父今宮神社

奉賛会だより



(平成二十九年正月号)

年頭のご挨拶

今宮神社 宮司 塩谷 崇之

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素は当神社に格別の御尊神と御雋志を賜りまして誠にありがとうございます。

「酉歳」の年頭にあたり、中町奉賛会の皆様をはじめ、秩父地域のますますの隆昌と安寧を心よりお祈り申し上げます。

十二支の十番目の干支となる酉（とり）は人に時を知らせる動物。「とりこむ」に通ずることから、商売にたずさわる方々からは縁起の良い干支として重宝されていますが、「親切で話し好き」のイメージから広く人気を集めています。また、さんずいに「酉」と書くと「酒」となります。「酉」という漢字は、酒壺を描いたものといわれます。収穫した作物から酒を抽出するという意味や、収穫できる状態であることから、「実り」すなわち果実などが成熟した状態を表しているとも言われています。

さて、昨年度は、秩父夜祭がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、秩父にとって歴史的な、大変おめでたい年となりました。日柄や天気にも恵まれ、全国から実に三十八万人もの観光客が訪れ、大いに盛り上がりました。そのような中で、不肖私が、中町梶取の大役を務めさせていただいたことは大変嬉しく、誠にありがとうございました。これも皆さまの温かいご支援の賜物と、あらためて御礼申し上げます。



新社殿の御造営に向けて

今宮神社の御神域には、かつて立派な朱塗り権現造りの社殿がどつしりと構えています。

今までの本殿は一間社流造銅板葺。拝殿は方三間の入母屋造平入銅板葺。宝永六年（一七〇九年）から翌七年にかけて、大宮郷（現秩父市）の工匠である大曾根与兵衛により建立されたものとされています。



今宮神社においても、昨年夏、社殿御造営に先立ち、新しい授与所（お札場）が完成し、社頭にて参拝者をお迎えできる態勢も整い、今年度より、新たな社殿の御造営に向けた取り組みが始まります。現在の仮本殿と朱塗りの鳥居の間の神域に、かつて境内に威風堂々と聳えていた御社殿（現在の聖神社社殿）と同規模の拝殿を建設し、御参拝の皆様が昇殿参拝できるようになります。現在の仮本殿と朱塗りの鳥居の間の神域に、かつて境内に威風堂々と聳えていた御社殿（現在の聖神社社殿）と同規模の拝殿を建設し、御参拝の皆様が昇殿参拝できるようになります。

この旧社殿は、昭和三十九年、境内地を児童館として開放するにあ

たり、黒谷の聖神社に寄贈され、現在でも、聖神社の御社殿として親しまれています。

当社においても、平成二十五年以来の御神域

今年もまた、元日の「歳旦祭」につづき、新しき春の到来を喜ぶ「立春祭」、明治十一年「秩父大火」の思い起こし防災の決意とともに火伏の神々に祈りを捧げる「三社祭」、武甲山の龍神さまを里にお迎えして感謝を捧げる「龍神祭」、六月には、高祖役小角（役行者）をお祀りする「役尊神祭」（行者祭）、そして水無月晦の「夏越大祓」。秋には、そして当社の主祭神であるイザナギ、イザナミ、スサノヲの三柱の神々に感謝の誠を捧げる「例大祭」へと繋がります。皆様方にもぜひお運びいただき、祈りを共有させていただければ誠に幸甚に存じます。

平成二十九年　元旦

執り行いたいと思つております。

追つて皆様方には御造営行事の日程・募財等についてご案内を申し上げますので、ぜひ皆さまのご支援ご協力を賜りたく、お願い申し上げます。



これまで検討を重ねて参りましたが、平成三十年をひとつの節目として、将来に向けて、今宮神社が皆さまの心の故郷・日々の支えであり続けるよう、新社殿の御造営事業を計画いたしました。今宮の大神さまへの思いを、皆さまとともに長く後世へ伝えていけるよう願っています。まず第一弾として、現在の仮本殿と朱塗りの鳥居の間の御神域に、かつて境内に威風堂々と聳えていた御社殿（現在の聖神社社殿）と同規模の拝殿を建設し、御参拝の皆様が昇殿参拝できるようになります。また、御社殿の周囲には、記念植樹を行い、新たな鎮守の森の形成に努めたいと考えておりますが、これと平行して、東日本大震災以来若干の樹勢の衰えが見られる大櫻の維持・存置のための整備事業もあわせて執り行いたいと思つております。

神社が皆さまの心の故郷・日々の支えであり続けるよう、新社殿の御造営事業を計画いたしました。今宮の大神さまへの思いを、皆さまとともに長く後世へ伝えていけるよう願っています。まず第一弾として、現在の仮本殿と朱塗りの鳥居の間の御神域に、かつて境内に威風堂々と聳えていた御社殿（現在の聖神社社殿）と同規模の拝殿を建設し、御参拝の皆様が昇殿参拝できるようになります。また、御社殿の周囲には、記念植樹を行い、新たな鎮守の森の形成に努めたいと考えておりますが、これと平行して、東日本大震災以来若干の樹勢の衰えが見られる大櫻の維持・存置のための整備事業もあわせて執り行いたいと思つております。

